

9月の植物（きのこ編）

ウスキキヌガサタケ（スッポンタケ科）

学名： *Phallus luteus* (Liou & L. Hwang) T. Kasuya

ウスキキヌガサタケ（淡黄衣笠茸）は、広葉樹林の林床などに発生する、腐生性のきのこです。幼時は白い膜に包まれた球形で腐植土に隠れていますが、成熟すると、托（たく）と呼ばれる海綿状の柄の部分の部分が伸長し、同時に山吹色の網目状の菌網（マント）を広げ、2～3時間であっという間にしぼんでしまいます。頭部には、暗緑色で粘液状のグレバが異臭を放ち、蠅や蛾、甲虫などを誘引して、胞子を拡散させます。

近縁のキヌガサタケは、菌網が白色で、真っ白なレースのスカートを纏っているような姿から、「きのこの女王」と呼ばれています。ウスキキヌガサタケの鮮やかな黄色のマントも、さながら女王の風格があります。

同種は、環境省レッドリストの情報不足（DD）、佐賀県レッドリストの準絶滅危惧種に選定されています。ふかふかの腐植土に生育していますので、もし見かけたら、周辺の林床を踏み固めないように気をつけながら観察しましょう。

（文責：鶴田めぐみ）



▲2026年9月15日 多良山系（藤津郡太良町）にて撮影（筆者）

【参考文献】 今関六也,大谷吉雄,本郷次雄 編『増補改訂新版 山溪カラー名鑑 日本のきのこ』（2011年）
根田仁,伊沢正名『たのしい自然観察きのこ博士入門』（2006年）